大学院オペラ ガラ・コンサート

2020年12月17日（木）18:00開演（17:30開場）

洗足学園 前田ホール

指揮	演出
時任 康文	中村 敬一

W.A.モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」

G.ヴェルディ／歌劇「椿姫」

G,ドニゼッティ／歌劇「愛の妙薬」

G.ヴェルディ／歌劇「リゴレット」

L.バーンスタイン ／喜歌劇「キャンディード」

出演

2年：池田 実来／壽美 玲子／原 芽衣

1年：後藤 ゆずか／ジャン・イジャオ／鈴木 彩生／チン・エイケツ／長島 彩／村田 涼／ユウ・ハン／脇屋敷 美里／渡辺 華子

演奏補助要員：川田 直輝／後藤 春馬

ピアノ：服部 容子／白取 晃司／前田 孝子

スタッフ

指導教員：甲斐 栄次郎／ジョン・ハオ／中鉢 聡／増田 のり子／柳澤 涼子／服部 容子(コレペティトール)

舞台監督：穂苅 竹洋

照明：三輪 徹郎

ヘアメイク：フォレスタ

衣裳コーディネート：大井 範子／水島 範子

協力：音楽環境創造コース学生

⚠新型コロナウィルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
・大声や対面での会話はお控えください。
・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

Program

W.A.モーツァルト(1756-91)歌劇《フィガロの結婚》より

No1、No2「5… 10… 20… 」

Susanna／鈴木 彩生　Figaro／後藤 春馬

No. 7 「なんだと！直ちに行くのだ」

Susanna／後藤 ゆずか　Basilio／ユウ・ハン　Il Conte／川田 直輝

Recitativo「なんて馬鹿げているの！」

Susanna／渡辺 華子　La Contessa／村田 涼　Cherubino／ジャン・イジャオ

No.14、No15、No16「スザンナ出てきなさい」

Il Conte／川田 直輝　La Contessa／長島 彩　Susanna／脇屋敷 美里　Figaro／後藤 春馬　Cherubino／後藤 ゆずか

No.29「そっともっと近づいてみよう」

Il Conte／川田 直輝　La Contessa／村田 涼　Susanna／渡辺 華子　Figaro／後藤 春馬　Cherubino／ジャン・イジャオ

～休憩～

G.ヴェルディ(1813-1901)/歌劇《椿姫》より

1幕デュエット「なんて青い顔なのかしら」

Violetta／壽美 玲子　Alfredo／ユウ・ハン

G,ドニゼッティ(1797-1848)/歌劇《愛の妙薬》より

1幕デュエット「ラララ…」

Adina／後藤 ゆずか　Nemorino／チン・エイケツ

2幕デュエット「なんという愛！」

Adina／池田 実来　Dulcamara／後藤 春馬

G.ヴェルディ/歌劇《椿姫》より

2幕デュエット「ヴァレリー嬢で？」

Violetta／壽美 玲子　Giorgio Germont／川田 直輝

G.ヴェルディ/歌劇《リゴレット》より

2幕デュエット「娘よ！　お父様！」

Gilda／原 芽衣　Rigoletto／川田 直輝

L.バーンスタイン(1918-90)/喜歌劇《キャンディード》より

「畑を耕すんだ」

出演者全員

Profile

指揮：時任 康文　Yasufumi tokitou

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科卒業後、東京音楽大学指揮科にて指揮を紙谷一衛、汐澤安彦、両氏に師事。在学中より二期会、日生劇場を中心にアシスタントとして数々のオペラ公演に参加。1990 年「東京の夏」音楽祭にてカールマンのオペレッタ「チャールダーシュの女王」を指揮してデビュー。1997 年度文化庁在外派遣研修員としてイタリアに留学、故ネッロ・サンティ氏に　師事し、チューリッヒ歌劇場、アレーナディ　ヴェローナ等で研鑽を積んだ。

演出：中村 敬一　Keiiti Nakamura

鈴木敬介、栗山昌良、三谷礼二、西澤敬一各氏のアシスタントとして研鑽を積み。1989 年より、文化庁派遣在外研修員として、ウィーン国立歌劇場でオペラ演出を研修。新国立劇場デビューの「沈黙」が高く評価される。ジローオペラ新人賞、大阪舞台芸術奨励賞を受賞。オペラの台本も手がけ、松井和彦作曲　「笠地蔵」　「走れメロス」　新倉健作曲「ポラーノの広場」、「窓（ウィンドウズ）」などがある。　洗足学園音楽大学客員教授、国立音楽大学客員教授、大阪音楽大学客員教授、大阪教育大学講師、沖縄県立芸術大学講師

Program note

W.A.モーツァルト/歌劇《フィガロの結婚》より 1 幕 No.1、No 2　「5… 10… 20… 」

舞台は、1930 年代のスペイン•セヴィリア近郊のアルマヴィーヴァ伯爵邸。伯爵の従者であるフィガロと伯爵夫人の侍女スザンナの結婚式が行われる日の朝方。

フィガロは、部屋でベッドを置くための寸法を測り、一方のスザンナは結婚式のヴェールをフィガに自慢したくて仕方がありません。幸せの絶頂のふたりですが、フィガロの「気前のいい伯爵様が、この部屋を僕たちに与えてくださるんだよ！」という一言で空気が一変。女好きの伯爵の下心に全く気が付かないフィガロに、スザンナは持ち前の機転で明るく説明します。さらに一度廃止されたはずの初夜権を、伯爵が再び復活させようとしていることを聞かされたフィガロは大激怒。出来るだけ早く婚礼の許しをもらい、伯爵の企みを防ごうと策を練るのでした。

Recitativo　No7　「なんだと！直ちに行くのだ」

昨日、バルバリーナと二人で居るのを伯爵に目撃され、暇を出されたケルビーノ。伯爵夫人に伯爵への取り成しを頼もうとスザンナの部屋へ来たケルビーノだが、そこへ伯爵がやってくるのでケルビーノは慌てて椅子の後ろに隠れる。伯爵はすぐにスザンナを口説き出すが、そこに音楽教師のバジリオが現れたので椅子の後ろへ隠れる。ケルビーノは慌てて椅子の上へ逃げる。スザンナはバジリオを追い出そうとするが、彼はお構いなしにケルビーノが夫人にご執心だという噂話を始め、それを聞いた伯爵が怒って姿を表し皆大慌て。スザンナはバジリオと共にケルビーノに穏便な判断を願うが、伯爵は再びケルビーノを椅子の上に発見。スザンナはこの先どうなることやらと気を揉み、バジリオは、女はみなこういうものだと高らかに歌う。

2幕 No14、No15、No16　「スザンナ出てきなさい」

第二幕、伯爵夫人の部屋。

伯爵の不貞の現場を押さえようと、夫人はケルビーノにスザンナの恰好をさせて伯爵との逢引の場所へ向かわせる計画を企てる。ケルビーノの着替えに心穏やかでない夫人だが、ケルビーノと二人きりになったところへ、夫人が逢引きをすると嘘の手紙を受け取った伯爵がやってくる。ケルビーノが隠れた化粧室からの物音に益々疑いを深める伯爵と、そこに戻ってきたスザンナも加わり緊張の三重唱。伯爵は夫人と共に扉を開けるための道具を取りに部屋を出る。

その様子を影から見ていたスザンナは、ケルビーノを部屋から出し、2 人は彼の脱出を計る。部屋の扉には全て鍵がかかっている為、彼は窓から庭へ飛び降り、それを見届けたスザンナは化粧室へ入る。部屋に戻って来た伯爵に、夫人はついに化粧室に居るのはケルビーノだと告げてしまう。怒りに震えた伯爵だが、化粧室から出てきたのはスザンナであった。形勢逆転の夫人だが、手紙はフィガロが書いたものだと明かしてしまう。そこへフィガロが登場し、婚礼の準備を促すが、伯爵に手紙の事を聞かれると、しらを切ってしまう。それぞれの登場人物が駆け引きの言葉を交わす。

4幕 No29　「そっともっと近づいてみよう」

伯爵家の庭。伯爵の浮気の現場をおさえるため、スザンナと伯爵夫人はお互いの装いを交換して現れる。そこへ通りがかりのケルビーノが現れ、さらに伯爵も現れて事態は大混乱。伯爵と夫人が別々にあずま屋へ消えると、スザンナは夫人としてフィガロを騙そうとするが、声でばれてしまう。フィガロは夫人へ向けた偽りの愛の告白でスザンナを惑わす。スザンナは彼を非難するが、フィガロの優しい言葉に仲直りする。そこに現れた伯爵は、夫人とフィガロが逢引をしていると誤解し怒りに身を震わせる。本編ではこの後、全ての誤解が解け一同喜びの中、舞台は幕を閉じる。

G.ヴェルディ／歌劇《椿姫》より１幕デュエット「なんて青い顔なのかしら」

高級娼婦ヴィオレッタの邸で毎晩のように開かれている華やかなパーティーの中、具合が悪くなったヴィオレッタは、別室に座り込む。そこにやってきたアルフレードは、ヴィオレッタにこんな生活をしていてはいけないと言い、１年前からあなたを好きだったと告白する。ヴィオレッタはそれを軽くあしらうが、彼の真剣さに心を動かされる。そして椿の花を渡して再会を約束する。

G,ドニゼッティ／歌劇《愛の妙薬》１幕デュエット「ラララ…」

舞台は1700年代末、スペインのバスク地方にある村。純朴な農夫ネモリーノは村一番の美女で地主の娘アディーナに恋をしている。彼女に焦がれるあまり、彼は行商人ドゥルカマーラから"全ての女性に愛される"という愛の妙薬を手に入れる。しかし、ただのワインだったその妙薬ですぐに酔いが回り始め、すっかり陽気になり歌い出す。そんなネモリーノを見たアディーナは驚き、"明日になれば自分を愛するようになる"と知らんぷりするネモリーノにひどく自尊心を傷つけられる。

２幕デュエット「なんという愛！」

夕暮れの村の広場。ネモリーノが村の娘達に囲まれて上機嫌な様子で立ち去って行くのを見たアディーナは苛立ちと嫉妬を覚える。そこに現れたドゥルカマーラから、ネモリーノがアディーナのために軍隊に入ったお金で妙薬を手に入れたと聞く。そして自分の事を一途に愛し続けてくれるネモリーノの愛の深さに感動し涙を流すと同時に、今までの自分の薄情さを思い出し後悔する。すかさず「愛の妙薬」を売ろうとするドゥルカマーラに、アディーナは自分の力で彼の心を勝ち取るとその申し出を断る。

２幕デュエット「ヴァレリー嬢で？」

パリでの乱れた生活を離れて、ヴィオレッタはパリ郊外の家でアルフレードと愛の日々を送っている。そこへアルフレードの父親ジェルモンが現れ、娘のためにアルフレードと別れてくれと頼む。ヴィオレッタは、自分とアルフレードがどれだけ愛し合っているか、更には自分が不治の病に侵されていることを打ち明けるが、ジェルモンは聞き入れない。万策尽きたヴィオレッタは、アルフレードの妹のために自分を犠牲にして、彼と別れる決心する。

G.ヴェルディ／歌劇《リゴレット》より２幕デュエット「娘よ！　お父様！」

時は16世紀、イタリアのマントヴァにある公爵の館。公爵に仕える道化師リゴレットには、隠し育てていたジルダという一人娘がいた。彼女は、貧しい学生と偽ってジルダに近づいた侯爵に、すっかり恋をしてしまう。すると日頃リゴレットに恨みを持つ公爵の家来たちは、ジルダを誘拐して侯爵の元へ連れて行ってしまう。
ジルダが公爵邸に誘拐されたと知ったリゴレットは、道化話で態度を取り繕いながら娘の所在を探し回る。そこにジルダが侯爵の寝室から飛び出して来る。彼女は、昨夜、不意にさらわれて辱めをうけたが、彼への愛情は変わらないことを父親に切々と訴える。リゴレットの怒りは公爵へ向けられ、彼は殺意を抱き公爵への復讐を誓う。

L.バーンスタイン ／喜歌劇キャンディードより「畑を耕すんだ」

作曲者バーンスタインの言葉では、「コミカルオペレッタ」とされている、ヴォルテールの「カンディード、或いは楽天主義説」を原作とした舞台作品である。ドイツの片田舎から追放された青年が、世界中を放浪する奇想天外な物語。
最終場で歌われるこの曲は、そうしたバタバタの困難を乗り越えた恋人同士が「これからは自分達の畑を耕し、一生懸命ひたむきに生きよう」と歌う場面。

本日出演の学生達が、コロナ禍を乗り越えこれからもベストを尽くして、それぞれどんな畑を耕していくのかを楽しみに、応援していきたいと指導教員一同願っています。